令和元年産米概算金を発表する佐藤組合長

あきた白神トピックス

秋田県産あきたこまちの最高取引価格を提示

営農部

令和元年産米の概算金・買取米価格について協議する受検組合長会議が、9月13日に管内3地区で開催されました。

今後も生産者が安心して稲作に取り組み、集荷に結び付けるため長年の卸との信頼関係や、直接販売の多さを強みに全農あきたが決定した13,300円／60kgの概算金よりも700円／60kg多い14,000円／60kgの当組合独自の概算金を決定し参加者らへ公表しました。

佐藤組合長は「卸や理事会内で協議を重ねた結果、秋田県産あきたこまち「あきた白神米」のプライドをもった最大の価格を導き出して日本一の取引価格を目指す。」と力強く宣言しました。

能代地区受検組合長会議では、消費者が求める安全安心な「あきた白神米」を出荷することなどを含む4項目について出席者らで申し合わせ会議を終了しました。

稲刈日和りが続き、ＣＥに続々と搬入されるあきた白神米

出来秋収量を占う坪刈り実施

青年部・営農部

令和元年産米の作柄を占う、ＪＡあきた白神青年部（佐藤一樹部長）による多収穫競作会（坪刈り）が9月10日から各地域で行われました。この日行われた計11地点を青年部員らが刈取りを行い、集められた稲穂を脱穀後脱芒機にかけ総重量を計測しました。

総重量を計測した結果、最高収量は697.7kg／10ａで、11箇所の平均収量は609.1kg／10ａとなり、昨年同一地区で計量した際の平均収量が541.4kg／10ａであったことからも、昨年産米よりも良好な収量が見込める結果となり、青年部員らにも安堵（あんど）した笑顔がみられました。稲刈りも終盤戦、皆さんの作柄はいかがでしたか？

脱穀・脱芒作業を行う青年部員

粒の大きさや水分量などを検査する担当者

令和初検査

営農部

品位鑑定資格を持ったＪＡ職員らが、9月24日から令和元年産米の初検査を各農業倉庫、カントリーエレベーターで開始し、玄米の形や色、水分量などを念入りに確認しました。

9月末時点での集荷状況は61,944.5俵で、一等米比率は94.0%と上位等級でのスタートをきることが出来ました。

検査結果を確認した生産者は「一等米に格付けされて、ひとまず安心した。残りも適正な乾燥調整作業を心がけて頑張りたい。」と話してくれました。

ＪＡ販売課では令和元年産米の集荷目標は240,000俵としており、適期刈取りに注意し1俵でも多く出荷を求めております。